

平成28年度 野外観察講習会

日時 平成28年7月29日(金)

場所 ブナの森 温身平 (山形県小国町)

参加者 山形市内小中学校教員 22名

講師 志鎌 節郎 氏 (植物案内人)

日程 8:30 山形市総合学習センター集合・出発 → 11:00 飯豊山荘着

14:30 飯豊山荘発 → 17:00 山形市総合学習センター着・解散

今年の梅雨明けとなった7月29日(金)に晴天の中、山形市総合学習センターをバスで出発しました。小国町温身平までは、2時間半強かかりました。温身平は、磐梯朝日国立公園・飯豊連峰の麓に広がる美しいブナの原生林が広がっているところです。そこに森林セラピーロードとして、5.5kmの散策コースが整備されています。



今回の行程は、湯沢ゲートから散策路に入り、はなれ山遊歩道を通してメインロードへ、そして、けもの歩道を通して湯沢ゲートへ戻るコースでした。メインロードからはなれ山遊歩道では、エゾアジサイやツノハシバミ、サワグルミやトチ、ホオノキ、ヤチダモの巨木、ジュウモンジシダ、リョウメンシダ等のシダ類、チタケなどのキノコを教えていただきながら散策しました。日の当たる場所から木立の中に入ると、数度気温が下がったように感じ、まるで天然のクーラーでした。

飯豊連峰展望台付近で昼食をとった後、けもの歩道へ入ると、大変見晴らしのよいブナの原生林の中の散策になりました。そこでは、ブナの木肌の模様にもなっている地衣類について話を聞かせていただきました。地衣類は菌類と藻類の共生生物で、菌類が光合成によってエネルギーを得ることができるためブナへの影響はないのだそうです。そして、足もとには、ブナの幼木がたくさん出ていました。このうちどれだけのブナが大きくなることができるのでしょうか。昨年度、ブナの実が多く付いたというこ

ともあってこの光景を見ることができたのだと思いました。昨年度、蔵王中央高原のブナ林では見ることのない様子でした。

こうしてブナ林を心地よく散策していたところ、空が暗くなってきたと思ったら、雨がポツポツと降り出し、さらに激しく降り出しました。川のようになった山道をバスまで戻りほっと一息。バスで帰路につくと小国町の中心部では晴天。道の駅でカップを干すなどしながら少しゆっくりして山形市へ戻ってきました。

最後は激しい雨で残念なところもありましたが、雨だからこそブナの幹を一筋に流れる水の流れを見ることができました。心身ともにリラックスすることもできた野外観察講習会になりました。



ツノハシバミ



ヤチダモ(上)

粘菌(左)





見通しのよいブナの原生林



足もとに広がるブナの幼木

